

『感染対策チームの仕事』 感染管理専従看護師 深田理佳

院内感染対策委員会（ICC：Infection Control Committee）は、院内の感染管理・感染対策の最高決定機関です。そのICCと同等の権限を委譲され、院内で起こるさまざまな感染症から、患者さまや職員の皆さまを守るために活動する組織横断的チームが感染対策チーム（ICT：Infection Control team）です。平成26年4月1日より『感染対策室』が設置され、ICTメンバー（感染管理専従看護師1名、兼任の感染管理医師、薬剤師、検査技師各1名）が中心となり活動しています。ここではICT活動内容の一部をご紹介します。平成26年8月1日より「感染防止対策加算1」を算定開始、同時に「感染防止対策地域連携加算」を算定しています。当院に係るすべての皆さまのご協力のもと、近隣医療保険施設との連携を密に、院内・地域感染管理に関する質の向上を目指して、活動して行きたいと考えています。これからもどうぞよろしくお願い致します。

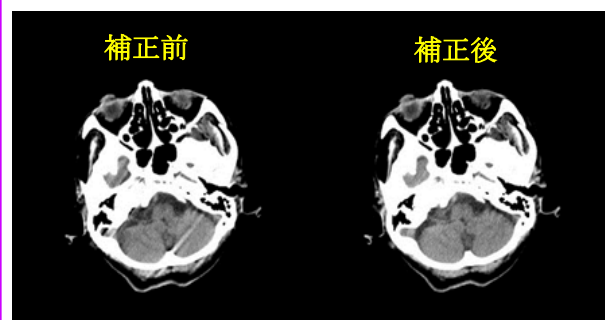
- 週1回以上の院内ラウンドやカンファレンスで、現場における感染問題に迅速に対応
- 薬剤耐性菌や感染管理上問題となる微生物の検出を各部署に報告し、迅速に感染対策を実施できる体制を整備
- 院内感染が疑われる事例が発生した場合、速やかに感染源や感染経路について状況確認・調査を行い、感染拡大を防止
- 感染症の流行時期や予測できる場合などは、院内ポスター等の掲示物で情報提供
- 各関係機関のガイドライン等を参考に「院内感染対策マニュアル」の随時見直し改訂
- 職員の各種ワクチン接種の推進、針刺し事象・空気感染を含む職業感染防止に関する対応
- 感染防止対策・管理に関する教育指導
- 抗菌薬の適正使用に関する活動
- 多職種との協働により、感染予防・管理の相談に対応
- ファシリティ・マネジメント(洗浄・消毒・滅菌、廃棄物処理、空調・水質管理など)の推進



『CT診断装置の更新』

放射線科 主任技師 市川和秀

2014年9月1日 東芝スキャナ「Aquilion PRIME」全身用X線CT診断装置が導入されました。本装置の特徴は、「患者様にやさしい設計」：従来のCTよりも開口径が60mmも広くなりました。圧迫感が軽減されると同時に、体位に依存しない柔軟な検査が行える環境を提供できます。また体積も従来より34%削減し、コンパクトな設計になっています。「撮影時間短縮」：頭部で約15秒、体幹でおよそ半分の時間になり胸部は約4秒、胸腹骨盤部も約7秒で撮影できます。また、息止めの時間も短くなり、患者様の負担軽減となります。「被曝低減/高画質」：AIDR 3D (Adaptive Iterative



Dose Reduction) という、被曝低減と高画質を両立する新たな技術を搭載しています。逐次近似を応用した再構成処理を行うことで飛躍的なノイズ低減と画質向上を図り、最大75%の被曝低減率、50%のノイズ低減率となります。

「動きに強い」：APMC (Advanced Patient Moving Correction) という体動を受けたデータのズレを生データ上で補正し、体動によるアーチファクトを低減させる機能が搭載され、特に頭で威力が発揮されます。難しいことをずらずらと書きましたが、要する

に、新しいCTは、被曝が少なくなり、撮影時間が短くなり、多少の体動は、補正されきれいな画像で出力され、より良い診断画像を提供できるようになったということです。

『脳外科手術の整容的工夫』

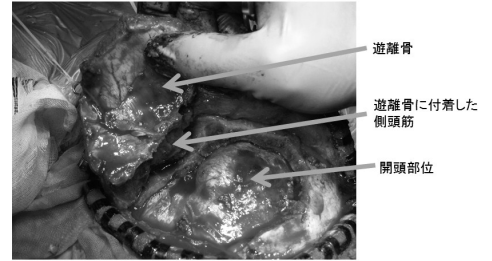
脳外科部長 永井 睦

脳神経外科手術において、病変部位に到達するには脳を傷つけずに、脳の隙間を広げて道を作り術野を確保するのが一般的です。この到達方法で最も多く使うのがpterional approachという方法です。これはちょうど「こめかみ」あたりの骨を10 x 5 cmほど開けて、骨の下の硬膜を解放して行います。実際の開頭範囲は、10 x 5 cmでこの部分の頭蓋骨を開ける必要があるのですが、直接その直上で目尻のややうしろに10 cm程度の皮膚切開をおくわけではありません。顔面は毛髪がないため術後の傷が顔にもろに出てしまうからです。そのため皮膚の切開は毛髪の生え際より毛髪側で行います。

一般的には皮膚切開後、側頭筋を頭蓋骨から剥がし、頭蓋骨を露出させてドリルと骨切り器でソラマメの形に骨を遊離させ外します。病変部の操作を行った後は閉頭しますが、このとき遊離した頭蓋骨はチタン製の金具で周りの骨と固定するだけです。これだと遊離させた頭蓋骨には血流が途絶えてしまい将来的に頭蓋骨の委縮をきたし周囲の骨との癒合もすすみません。さらに筋肉付着部をすべて剥がすため筋肉の委縮もきたし術側の顔面のこめかみが痩せこけたようになり、顔面の左右差が出てきます。さらに開口障害も出現します。

私たちはこの醜状を改善すべく、新しい開頭方法をあみ出しました。その方法は側頭筋を筋膜の下で皮膚と分け、側頭筋を頭蓋骨にくっ付けたまま骨を開窓することです。この方法で行うと閉頭後の骨の委縮や側頭筋の委縮もなく開口障害も出現しません。また、完全無剃毛で手術をすることも行っています。

結婚式を2か月後に控えていた女性の患者さんは完全無剃毛+上で述べた新しい方法で手術を行い、傷痕や術後の醜状にまったく悩まされることなく無事に結婚式を挙げられました。これ、学会で発表しているのですが残念ながらなかなか日本に(世界に?)浸透してゆきません。



『職員旅行』

平成26年度の職員旅行は愛知県の蒲郡(がまごおり)温泉に行きました。途中、静岡県は可垂斎(かすいさい)に立ち寄り、浜名湖の遊覧船に乗りました。「ホテル竹島」の目の前には、その名の通り三河湾に浮かぶ竹島がありました。バスに乗っている時間が多い旅路ではありましたが、それでもやはりゆったりとした気持ちで旅をすると心が軽くなりました。(吉田)



ホテル付近から望む竹島



竹島にある八百富神社



可垂斎 本堂

広報委員

- ・奥澤星二郎(医師)
- ・安部正彦(事務)
- ・高橋忠幸(事務)
- ・河邊正浩(事務)
- ・山脇富士野(看護)
- ・羽角安夫(事務)

今年もあと残りわずかなり、二〇一五年の扉からノック音が聞こえてきそうです。晩秋に差し掛かり皆さんにとつてどんな季節でしょうか。スポーツ、読書、食欲の秋等・・・食というフレーズに自然に身体が赴いてしまうこともありませう。秋は気候的に体を動かしやすく、普段スポーツをされない方でもこの秋から、何かの気分で始めてみてはどうでしょうか。少しの散歩でもまだまだ汗ばむくらいで自然を体感する第一歩です。風を感じ、風を聴き、風が香り、ふと目を閉じると清々しく感じられます。さて、最近の出来事といえば、最近の出来事といえね。アベノミクス効果でしょうか？七年ぶりに株価一万七千円台を回復し、為替も六年ぶりに一五円台前半まで下落。生活していくうえで顕著に表れることはガソリン・食料品の高騰です。庶民の楽しみである紅葉・ドライブ・グルメ旅もそう簡単にはと思わず今であります。

(T・T)

編集後記